

中部学院大学報

PAULOWNIA⁺

ポローニア プラス

CHUBUGAKUIN DIGEST



2022年春、2人の新学長のもと、
中部学院は新たなスタートを切りました。
次の100年に向けて
学院一人ひとりが心をひとつにし、
改革・改善を進めていきます。
新時代の中部学院にご期待ください。

発行 | 中部学院大学報編集委員会

2022 Vol.48

Contents

- P 04 SPECIAL FEATURE 01
中部学院大学 SDGs 宣言から1年
- P 06 SPECIAL FEATURE 02
インドネシア教育大学と学術交流で連携協定
- P 08 SPECIAL FEATURE 03
キラッと輝く中部学院生
- P 10 CLUB & CIRCLE
- P 12 TOPICS
- P 14 保護者の皆さまへ



大学
江馬 諭
学長

短期大学部
片桐 史恵
学長

ニューリーダーのもと
世界とともに「生きる、を学ぶ」

PAULOWNIA+
Vol.48



表紙写真
実習を控えて行われた看護学科の戴灯式より
=関キャンパス・グレースホール

学校法人岐阜済美学院は1918年の創設以来、100年を超える歴史を重ねてきました。

キリスト教を機軸とし、「生きる、を学ぶ」をモットーに掲げ、未来の地域社会に貢献する人材の育成に努め、
長年にわたり多くの卒業生を輩出してきました。

これからも福祉、教育、医療、スポーツの領域を軸に、大学の使命である教育、研究、社会貢献に愚直に取り組み、
岐阜の地から持続可能な社会の実現に向けてまい進します。

そして、何より本学が学生にとって気軽に訪れることのできる「もう一つの我が家」のような存在として、
笑顔 (Smile) の絶えない、安心・安全 (Safety) で、持続可能 (Sustainable) な
スマート (Smart) キャンパスを実現します。

SPECIAL FEATURE 01

中部学院大学SDGs宣言から1年

SDGs×中部学院大学 2030 Vision

世界とともに 生きる、を学ぶ



最新TOPICS 2022

JICA草の根技術協力事業

ベトナムで老年ケアプロジェクト

人材育成との仕組みづくりを確立

国際協力機構(JICA)草の根技術協力事業として、2018年度からベトナム・ダナン市グハンソン地区の地区病院を中心とした老年ケア・プログラムの構築に取り組んできました。具体的には、日本の倍の速さで高齢化が進んでいるベトナムで、病院と行政、民間が一体で取り組む高齢者ケアを普及させるための人材育成と仕組みづくり



をしてきました。人間福祉学部長でプロジェクトマネジャーの飯尾良英教授は、「プロジェクト終了後も継続してもらえる仕組みができた。現地の人に任せられる部分もあり、主体的な活動につながられた」と成果を振り返りました。

かかみがはらSDGsパートナーに登録

各務原市の「かかみがはらSDGsパートナー」に登録されました。各務原キャンパスでは、生涯学習の機会を提供している「シティカレッジ各務原」をはじめ、子どもの発達や療育、心の悩みを持つ方への心理に関する相談に応じる「人間福祉相談センター」、地域の保護者が子どもと共に活動できる「子ども家庭支援センター(ラ・ルーラ)」があり、「ぎふLD・ADHD等学習会」「子ども未来セミナー」なども開催しています。



図書館で啓発活動を展開

関、各務原の両キャンパスの図書館では、17の目標に関連する書籍や資料を随時展示し、啓発活動を展開しています。



2021年度SDGs活動実績一覧 (2021年度SDGs実績調査より)

3 すべての人に健康と福祉を

オレンジリボン活動

オレンジリボン活動の調査及び活動紹介動画「私たちの暮らしとSDGs」を作成して出品 (人間福祉学科 大数元康)

ぎふLD・ADHD等学習会の開催

第一線の研究者から発達障害の人たちがかけがえのない存在として尊重されるための最新の知見が講じられた (子ども教育学科 別府悦子)

人の多様性の尊重や共生社会の実現のため、子どもたちの健康、福祉の向上につながる研究を実施

岐阜県本巣市と乳幼児健診等の母子保健施策の充実に関わるコホート研究を進めている。また、北陸学院と建学の精神に基づくキリスト教主義及びインクルーシブ教育についての共同研究を実施。いずれもすべての子どもや人の多様性の尊重と共生社会の実現に向けての取り組み (子ども教育学科 別府悦子)

「健康大学」や福祉事業への助成で健康と福祉活動を実施

「コープぎふ大人の健康大学」を実施 ※1 コープぎふの有識者理事として参画 (スポーツ健康科学科 安藤信雄)

高齢者介護従事者による質の高い介護に向けた研究

介護従事者による高齢者虐待を含む不適切ケアについて研究し、1.「介護職員の共感的反応・行動チェックリスト」の作成 2.「プライバシー保護用移動型簡易スクリーン」を考案、制作 3.これまでに考案、改良した不適切ケア防止教育プログラムの一部を介護保険指定事業者へ配信 (社会福祉学科 横山さつき)

自立支援型移乗補助具の開発に向けた企業との共同研究

トイレ介助用手すりの開発・販売に向けての効果を検討 (社会福祉学科 横山さつき)

介護施設などでのケア・セラピー活動の実施

本学認定の資格を取得したボランティアグループを組織し「ケアマッサージ」「動物によるふれあい」により介護施設で活動。また、社会福祉士を目指す学生等によりフレクソロジストとドッグ・ケアセラピストの資格習得に向けた教育を実施し、介護施設等でケア・セラピー活動を実施 (社会福祉学科 横山さつき)

岐阜市環境部指定管理者の選定

岐阜市の健康増進施設の指定業者選定委員として、その選定に当たり後期高齢者の利用が増加していることを踏まえ、フレイル予防の観点からの意見具申を行った (社会福祉学科 野村敬子)

障がい学生への支援

障がいのある学生や社会人学生に向けた支援方針の整備、障がいのある学生への合理的配慮による学内での就学支援の充実強化、多様化する困難学生への個別面談の実施や学科との連携による就学支援のための情報共有、障がいのある学生に対応するための手引きとして「教職員のための障がいのある学生の就学支援ガイド」を全教職員に配布 (特別支援委員会)

学生への支援と環境整備

学生相談に関する危機管理マニュアル改訂版を関係教職員等へ配布、クリーンキャンパスデーにおけるキャンパス内清掃活動、サークル学生による励行と啓発、2022年度各種学生配布使用のデジタル化の検討 (学生支援委員会)

シティカレッジ講座の開設

健康・福祉系の講座の開設(関・各務原) (生涯学習課)

高齢者の健康づくりのための講座・教室を開講

ロコトレ講座を36回開催、講座に講師などを派遣 (地域スポーツクラブ事務局)

4 質の高い教育をみんなに

幼児の身近な科学への興味・関心を高める研究

幼児向けの「サイエンスタイム」を実施。廃材を使った工作遊びや簡単な実験を行い、教材や指導法、手立てなどの調査。こうした研究視点を学生への講義等で説明し、ESDやSDGsの観点からも解説 (子ども教育学科 梅田裕介)

ICTを活用した遠隔授業における効果と課題

ICTを活用した遠隔授業の実施による学生の反応と課題について分析し、次年度以降に向けて、教育の質を落とさないための遠隔授業対策への示唆を得た事例の報告 (看護学科 野田明敬)

COVID-19感染拡大に対応するための授業・実施方法の工夫

密にならない環境を整え複数の教室をZoomでつなぎ講義を実施。臨地実習が中止となったため、医学映像の動画利用、Teamsによる課題の提出・指導、Zoomによるカンファレンス、共同発表会が実施できる仕組みを設定。臨地と学内実習をする学生の差が回避できるようICTを利用した実習を実施 (看護学科 柴裕子)

成人看護学 慢性期実習における ICTを活用したオンライン実習と臨地実習の比較検討

一ストレス及び目標達成度に着目してー コロナ禍におけるオンライン実習に関し、2020年度にオンライン実習と臨地実習の到達度の検討を行った。ここでの検討結果を分析し、2021年度の実習に反映した。ストレス調査では学業ストレスが高かったことからその対応を図った。臨地実習では、自己の今後の生き方、職業に関わる実在的ストレスが高かった。この原因は、臨地実習の経験の短さによる劣弱意識にあると推察し、コロナ禍における状況把握、臨地実習の期間等の短縮、代替案などを工夫し、臨地及び学内実習を構築し実施した (看護学科 青木郁子 共同研究者 林久美子 柴裕子)

SDGsの大学での教育

大学の講義内で、SDGsの普及のための講義を実施 (スポーツ健康科学科 安藤信雄)

特別な支援を必要とする子どもの保護者から見た就学先決定に関する課題の検討

障がいを持つ子どもと保護者の幼少接続期に注目し、保護者に対するインタビューから、就学先決定に関する特別支援教育を受ける側から見た課題を明らかにした (幼児教育学科 小木曾友則)

シティカレッジ講座の開講

年間を通じて、地域の方々に生涯学習の機会を提供 (生涯学習課)

スポーツ教室の開講

本学のスポーツ資源(専門的な人材、施設)を活用したスポーツ教室や地域のスポーツ活動への指導者の派遣 (地域スポーツクラブ事務局)

オンラインハワイ研修

ハワイ大学カヒオラニ・コミュニティカレッジとのオンラインによる英語研修を受けながら、ハワイの文化に触れる異文化交流を実施 (国際交流・留学生支援課)

ILL(図書館間相互貸借システム)料金の無料化

ILL料金(学内にない資料を取り寄せる費用)の無料化(大学負担)により学生の経済的な負担がなくなり、学修の向上につながる (図書館事務局)

大学・短大と連携先との各種連携活動の実施

学生による地域貢献事業の実施、連携先との意見交換会の実施、地域公開講座の実施、高大連携事業の実施 (地域・産学連携課)

5 ジェンダー平等を実現しよう

医療機関におけるLGBTQ当事者に対する対応の研究

医療機関で働く医師・看護師・医療事務職員のLGBTQ当事者に関する知識・対応・態度に関する研究 (看護学科 林久美子)

ジェンダー平等活動

コープぎふの育児休暇中の職員との交流 コープぎふの障がい者雇用促進に関わる ※1 (スポーツ健康科学科 安藤信雄)

11 住み続けられるまちづくりを

地域社会づくり

夕食宅配事業の実施 組合員の暮らしの助け合い活動を地域に広げる ※1 (スポーツ健康科学科 安藤信雄)

誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくり

「可児市まちづくり活動助成金」の申請に係る審査の実施 (スポーツ健康科学科 安藤信雄)

12 つくる責任 使う責任

幼児の身近な科学への興味・関心を高める研究

廃材を使った工作遊びや簡単な実験などを行い、どのような指導法・手立てが有効か調査中。こうした研究視点を学生への講義等で説明し、ESDやSDGsの観点からも解説 (子ども教育学科 梅田裕介)

生産者と消費者による環境保全、循環型漁村の実現

森づくり活動資金の提供、北海道・野村漁協で魚を増やす植樹、沖縄・恩納村漁協でサンゴの植え付け活動、インドネシア タラカン島でマングローブの植樹活動、牛乳パックを回収して資金化し、地域の仕事づくりの応援 ※1 (スポーツ健康科学科 安藤信雄)

館内におけるペーパーレスの推進

マイライブラリ(パソコン・スマホ・携帯などから図書館利用ができるシステム)の活用を推進し、申込用紙の削減及びガイドランス資料のデジタル化による削減を図った (図書館事務局)

廃棄するコピー用紙の包装紙及び古新聞の活用

学内のコピー用紙の包装紙及び図書館の古新聞を活用したバッグを作成し、イベント等の景品として配布している (図書館事務局)

17 パートナリシップで目標を達成しよう

地域活動を行う起業家との交流

講義内において「各務原暮らし委員会」活動を行う地域の起業家5名(5社)との交流を行った (スポーツ健康科学科 安藤信雄)

進路指導研修会でSDGsの取組を紹介

「高等学校教諭対象進路指導研修会」において「探究活動の取り組み～SDGsについて～」の事例発表。SDGs宣言までの経緯や流れ、取組事例についての紹介を行った (入試広報課 大学広報室)

子どもの視点からSDGsを考えよう

世界中でSDGsについて考え、行動するきっかけを作るイベント「Global Goals Week」の期間中、未来に「誰一人取り残さない持続可能な地域」を宣言した岐阜新聞社が子どもの視点でSDGsについて考える企画を実施。本学では本企画の趣旨に賛同し、協賛した (入試広報課 大学広報室)

JICA草の根技術協力事業

日本式介護の普及と人材養成を図るため、ベトナム、ダナン市において一連の事業(学習会、ワークショップ、講習会、セミナーなど)を実施 (地域・産学連携課)

留学生の支援

入国手続き・入国後の諸手続きの指導・支援、留学生の学修支援のためにさまざまな活動を実施。総合的な生活指導・生活支援、支援事業所との情報共有、相互協力 (地域・産学連携課)

SPECIAL FEATURE 02

インドネシア教育大学と学術交流で連携協定



インドネシア教育大学との連携協定調印式より=東京都新宿区、インドネシア大使館



覚書に調印した(写真左から)インドネシア教育大学のアヨ・スナリオ文化技術実行局長、ヘリ・アフマディ駐日大使と中部学院大学の江馬諭学長、中部学院大学短期大学の片桐史恵学長

中部学院大学ならびに短期大学部は、インドネシア教育大学と学術交流に関する連携協定を締結しました。

調印式は8月12日、東京都新宿区のインドネシア大使館で行いました。駐日大使のヘリ・アフマディ氏が立ち会い、「文化遺産である『アングルン』(インドネシアの竹製の打楽器)を通して、両国の関係がさらに密接になることを期待している」と語りました。インドネシア教育大学国際交流センター所長のチューブ・ウバ・アブデルハー氏は、「両大学の芸術分野による協力関係が強化されていくことを期待している」と述べました。

国際交流・留学生センター所長を兼ねる短期大学部の片桐史恵学長は、「アングルンを通して、日本の教育機関において障がいのある学生や生徒、児童に向けた新しい学習プログラムを構築することを期待すると共に、両国の親交を深めたい」と語りました。

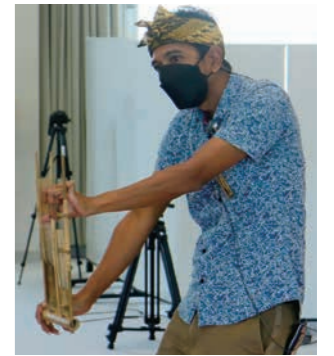
協定項目は、学生間の交流(スタディツアーなど)、インターンシッププログラムの構築、教職員間の交流や研究などを盛り込んでいます。具体的には、学生の海外研修をはじめ、本学の柱である保育・教育や福祉分野において、幼児から高齢者まで、障がいの有無に関係なく合奏できる「アングルン」を「ユニバーサル楽器」と捉えた「レクリエーションプログラム」の開発、さらには学術研究の促進などを図ります。



インドネシアの伝統楽器「アングルン」の合奏に臨む学生ら

伝統楽器「アングルン」を通じて異文化理解

本学とインドネシアとは、これまでに同国からの留学生が多数(2022年8月8日現在12名)在籍し、国際交流・異文化交流の推進に前向きに取り組んできました。6月30日には、同国の伝統楽器「アングルン」のジャワ島・西バンドン市首席奏者を務め、同国の国立中学校でも指導するアルディアン・スマルワンさんが来日し、特別講義「合奏ワークショップ」を開催しました。アングルンが1台ずつ手渡されると、実際に鳴らして優しい音色を体感しました。その後、『ちょうちょ』など全6曲を合奏しました。バンドン市出身で短期大学部社会福祉学科2年のハニフ・アキムッディン・ラッパニさんは「中学で習って以来でしたが、息を合わせて合奏するのが楽しかった」と話していました。



指導にあたるアルディアン・スマルワンさん

関キャンパスで歓迎セレモニー

調印式に先立ち、インドネシア教育大学のアヨ・スナリオ文化技術実行局長ら一行が8月10日、関キャンパスを訪れ、歓迎セレモニーを開催しました。

セレモニーでは、大学の江馬諭学長と短期大学部の片桐史恵学長がアヨ局長らに関市産のはさみを贈呈したほか、パイプオルガンやピアノデュオの演奏で歓迎しました。江馬学長は「大学同士だけではなく、日本とインドネシアの懸け橋になれば」、アヨ局長は「感謝しています。将来にわたり、仲良くやっていければ」と期待を寄せました。



友好の印として関のはさみを贈呈する江馬学長ら=関キャンパス



大学内の介護実習室を紹介するジャコ・リユ・トリコさん(中央)

留学生の話

人間福祉学部4年 ジャコ・リユ・トリコさん

祖父母の愛情を受けて、幸せな子ども時代を過ごしましたが、祖父母が高齢となり、病気がひどくなった時に、家族には介護の知識や経験はなく、世話するのが大変に見えました。「お年寄りなど人の役に立ちたい」という考えを持つようになりました。学び始めたころは、介護というのは「ただ人を世話することだけ」と思っていたのですが、大学で専門的なことを学び、介護施設でもアルバイトを経験し、介護の考え方が変わりました。精神的なサポートや、老いても人間らしく生活するための支援であることを学びました。

今は国家試験合格を目指して頑張っています。卒業後は介護福祉士として国内で働き、日本とインドネシアの架け橋となり、お役に立ちたいと思っています。日本で学んだこと、経験したことを、「いつかインドネシアで役に立てたい」と考えています。

SPECIAL FEATURE 03

キラッと輝く中部学院生

空手道部

3選手がナショナルチームに選出

本学空手道部の3選手が、3月から4月にかけて行われた選考会を経て、ナショナルチームのメンバーに選ばれました。選出されたのは、シニア女子形の三島きり選手(スポーツ健康科学部4年、島根・出雲工業高校出身)、ジュニアU21女子組手+68kgの寺澤紗良選手(同1年、済美高校出身)、同-50kgの伊熊遥花選手(同)。3人に選ばれた心境や今後の目標などについて聞きました。

※シニア(2022年4月時点で18歳以上)
※ジュニア=カデット(14・15歳)ジュニア(16・17歳)
U21(18~20歳)いずれも2022年7月27日時点の年齢



空手道のナショナルチームメンバーに選ばれた(写真右から)三島きり選手、寺澤紗良選手、伊熊遥花選手

スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科4年
三島きりさん
(みしま・きり)



2000年(平成12)年生まれ。島根県出雲市出身。幼少期から体を動かすことが好きで、3歳年上の兄が空手をしているのを見て「楽しそう」と思い、6歳から始める。出雲工業高校を経て、2019年4月に本学スポーツ健康科学部に入学。3年次には全日本学生選手権大会個人形ベスト8。技のスピードとキレが持ち味。得意技はスーパーリンベイ。好きな言葉は「継続」「反復」「丁寧」。「報われる努力をすること」を信条としている。160cm。

—ナショナルチームに選ばれた時の心境は。

はじめは実感がありませんでしたが、小さい頃から日本代表になることが一つの目標だったので、素直にうれしかったです。

—実際にチームに参加してみた感想は。

自分よりも技術の高い選手と間近で接し、多くの刺激を受けています。自分自身の課題も見つかり、筋力アップやトレーニング方法の改善など、さらに実力を高めていかなければならないと感じています。

—練習や日常生活で大切にしていることは。

練習と日常生活はつながっていると思っています。睡眠時間や食事の内容など、当たり前のことを当たり前にやることを心掛けています。日ごろの授業では、必要な知識を身に付けることができるため、積極的に臨んでいます。

—空手の魅力や醍醐味は。

練習すればするほど自分のパフォーマンスが上達することです。体の使い方を考えながら行くと、技のスピードなどが変わり、しなやかでありながら、キレのある動きを表現することができます。

—今後の目標は。

世界で戦える技量と人間性を高め、誰からも応援してもらえるような選手になりたいです。部としては、11月に行われる全日本大学選手権(団体)での優勝を目指しています。

—将来の夢は。

指導者も含めて、地元の空手界の発展に貢献したいと思っています。

速報 世界選手権に寺澤選手が出場

今年10月26日から5日間、トルコで開かれる予定の「第12回世界カデット・ジュニア&アンダー 21空手道選手権大会」に寺澤選手が出場します。



寺澤選手の話

国内大会とは環境がガラッと変わり、対戦相手も外国人となるため、これまでに経験したことのない全く異なる条件で試合に臨むことになりますが、動じることなく、自信を持って楽しんで試合をしてきたいです。



スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科1年
寺澤紗良さん
(てらざわ・さら)

2003(平成15)年生まれ。愛知県一宮出身。小学3年の時にスポーツを始めようと近くの道場に足を運んだのがきっかけで空手を始める。済美高校では、2年次に全国選抜大会で個人、団体共に準優勝。3年次にはインターハイで個人準優勝。2022年4月に本学スポーツ健康科学部入学。168cmの長身で、足のリーチを生かした「けり技」や「刻み突き」を得意とする。相手が間合いに入らないように自分のペースで試合を優位に進めるのに定評がある。座右の銘は「楽戦必勝」。試合に臨めることに感謝しつつ、楽しく試合をすることをモットーにしている。

—練習や日常生活で大切にしていることは。

自分の性格は負けず嫌い。細かいところまで意識して、強い気持ちで練習するように心掛けています。また、常に感謝の気持ちを忘れず、口に出すようにしています。試合では緊張するタイプですが、緊張するとベストパフォーマンスが出せないで、楽しみながら勝つことを目指しています。勉強との両立を図り、効率よくできるように努めています。

—空手の魅力や醍醐味は。

ほかのスポーツに比べて、極めて短い時間の中で、相手との心理戦を交えながら、一瞬のスキを狙うところです。

—今後の目標は。

国内では日本一になること。世界大会への出場も決まったので、世界一も狙っていきたいです。

—将来の夢は。

何らかの形で空手に携わっていきたくて思っています。そのためにも、まずは大学4年間でどこまで成長できるか「挑戦」し続けたいです。

の選手にも通用するようにレベルを上げていきたいです。

—練習や日常生活で大切にしていることは。

自分の弱点を克服するために、意識しながら、できるところまで徹底的に取り組むようにしています。日常生活ではやるべきことはきちんとできるようにがんばっています。授業も真剣に受け、理解するように努めています。

—空手の魅力や醍醐味は。

緊張した雰囲気の中で、相手と真剣勝負して良いパフォーマンスをどれだけできるか、ハラハラドキドキ感があるところ。自分の身体が勝手に動くこともあるので、日ごろからの練習が大事だと感じます。

—今後の目標は。

今年度のナショナルチームの活動は終わってしまったので、来年度も選ばれるように磨きをかけていきたいです。部としては、全国大会での優勝に貢献したいです。

—将来の夢は。

中学や高校で保健体育の教師になりたいと思っています。

全日本学生選手権に14名が出場



空手道の大学生個人日本一を決める「全日本学生選手権大会」が6月、兵庫県姫路市のヴィクトリーナ・ウイック体育館で行われ、空手道部は、男女の形、組手に合わせて14名が出場しました。組手では女子の寺澤選手の3回戦進出、形では、女子の三島選手=写真=、中路陽沙未(スポーツ1年/済美高校出身)の9位が上位でした。出場した選手は次の通り。

【形】男子 渡邊尚樹(人間福祉④/山梨・日本航空)高杉龍之介(スポーツ③/愛知・東邦)杉山優希(同②/東海大学静岡翔洋)永澤仁(同②/岩手・大船渡) 女子 三島きり(スポーツ④/島根・出雲工業)川上友維(同④/大阪学芸)中路陽沙未(同①/済美)
【組手】男子 吉田優太(人間福祉④/愛知産業大学工業)面晶大(スポーツ④/石川・小松大谷)小松凌也(同③/長野・松商学園) 女子 山口めぐみ(教育③/静岡・浜松開誠館)生魚瑠那(スポーツ③/埼玉・花咲徳栄)寺澤紗良(同①/済美)伊熊遥花(同)久富優羽(同)

スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科1年

伊熊遥花さん
(いぐま・はるか)

2003年生まれ。愛知県大府市出身。幼稚園年中の時に、兄の影響で空手を始める。済美高校では2年次に寺澤選手と共に全国選抜大会団体準優勝メンバー。得意技は連続で繰り出す突きと、前足で踏み込みながら前拳で相手の上段を突く「刻み突き」。平和主義を信条としている。153cm。



—ナショナルチームに選ばれた時の心境は。

最初は実感がわきませんでした。徐々に感じてきて、うれしい気持ちになりました。

—実際にチームに参加してみた感想は。

自分より強い選手ばかりで学ぶことが多い時間でした。組手は戦術で勝敗が大きく分かります。私の場合、身長が低いので、大きい選手と同じくらいの選手とでは戦い方が変わってきます。どのタイプ

CLUB & CIRCLE

ゴルフ部

荒川怜郁選手 世界大学選手権団体3位に貢献



ゴルフ部の荒川怜郁選手(スポーツ③/沖縄・ゴザ高校出身)が7月にイタリア・トリノで開催された「2022FISU WUC Golf (2022世界大学ゴルフ選手権大会)」に出場し、団体3位、個人でも日本人最高の6位に入り、世界の大舞台で躍動しました。

—世界の舞台でプレーした心境は？

世界の同世代のゴルファーとプレーができ、交流を深められて、楽しくゴルフができました。イタリアのゴルフ場の印象は、風についてはそれほど違和感はありませんでしたが、芝がペント(洋芝)で日本の環境とは異なりましたが、調整することができました。

—団体3位、個人でも日本人最高の6位の成績を残しました。

初日から3日間は、75、73、74(パー 72)と我慢のゴルフが続きました。最終日もいきなりダブルボギーを叩いてしまい、しょ

んぼりした気持ちでスタートしましたが、次のホールでバーディーが出たので、気持ちを切り替えました。どうやったらいいスコアを出せるかを考えながら、集中力を切らさず、あきらめずにゴルフを続けました。後半は4つのバーディー(1ボギー)を取り、良い結果につながりました。

—特に良かったところは。

3日間はスコアが伸び悩みましたが、パターのイメージは悪くありませんでした。元々グリーン周りのプレーは得意な方ではありませんが、最終日にしっかり修正するように意識しました。長いパターが入り始め、感触をつかむことができ、納得のいくプレーをすることができました。

—今後の課題は。

早い段階で修正ができるかできないかで、翌日以降のスコアに大きく影響します。次につなげられるゴルフを心掛け、早く修正できるようにしていきたいです。

—これからの目標は。

年内の目標はまずプロテストに合格すること。第1次(9月)、第2次(10月)、最終(11月)と続きますが、一つ一つのラウンドに集中して、プロ資格を取り、その上で、来シーズンのツアーシード権も狙い、来年はプロとして活躍したいです。

快挙! プロテストに現役4名が合格



全国大学対抗戦、全国大学女子対抗戦に出場したゴルフ部メンバー＝北海道、苫小牧ゴルフリゾート72 エミナゴルフクラブ

ゴルフ部は、第59回全国大学対抗戦、第45回全国大学女子対抗戦(6月/北海道・苫小牧ゴルフリゾート72 エミナゴルフクラブ)に出場。男子は4位、女子は5位でした。また、今年から新設された男子の常陸宮杯全日本大学対抗戦、女子の常陸宮杯全日本女子学生大学選手権(10月/石川・片山津ゴルフ倶楽部)へ出場します。個人では、笠原瑛選手(スポーツ③/広島・瀬戸内高校出身)がバンテリン東海クラシック、荒川選手と伊佐治瑚乃選手(スポーツ③/愛知啓成高校出身)は東海クイーンズ、荒川選手はさらにリゾートトラストレディスなどプロトーナメントにも出場しました。

また、プロテストでは、いずれもスポーツ健康科学部4年の服部雅也選手(愛知・岡崎城西高校出身、2位)、富田幸暉選手(福井工業大学福井高校出身、14位タイ)、藤田輝人選手(愛知・誉高校出身、14位タイ)、阪口亮太選手(三重・伊賀白鳳高校出身、22位タイ)がそれぞれ合格を果たしました。

女子ソフトテニス部 インカレ ダブルスに出場

今季からは春季東海学生大学対抗リーグ戦1部に昇格した女子ソフトテニス部は、6チーム中5位でしたが、1部残留を決めました。その後の試合も岐阜県リーグでは全勝優勝を果たしました。学生No.1を決める全日本インカレ学生選手権(第76回大学対抗、第77回ダブルス、第64回シングルス)が山口県で開かれ、団体は1回戦で駿河台大学に0-3で敗れました。

出場選手 川瀬友香(人間福祉③/鶯谷)鍋島梓沙(同/石川・鵬学園)大塚真矢(スポーツ②/県立岐阜商業)松久華奈子(看護①/鶯谷)小杉菜月(スポーツ①/高岡西)後藤桃寧(同/岐阜各務野)



吹奏楽部 東海学生コンクール 金賞に輝く

岐阜県吹奏楽コンクール大学の部で金賞を受賞した吹奏楽部は、岐阜県代表として東海大会(9月・羽島市)に出場。課題曲は『ジェネシス』、自由曲は『歌劇「トゥーランドット」』で臨みました。2年連続4度目の金賞に輝きましたが、全国大会(出場2枠)にはあと一歩及びませんでした。

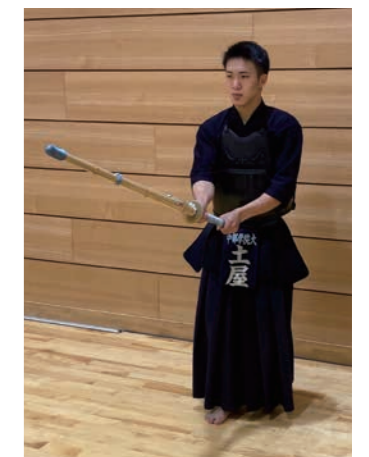
軟式野球部 全日本学生選手権に出場

軟式野球部は、岐阜市の長良川球場などで行われた「第45回全日本学生選手権」に出場しました。県リーグでは2位に留まりましたが、開催枠で出場を果たしました。1回戦は岡山大学(西日本1位)と対戦しましたが、4-8で敗退しました。



剣道部 全日本学生選手権に出場

剣道の東海学生選手権大会で準優勝した土屋壮平選手(スポーツ②/高山西高校出身)が本学から初となる全日本学生東西対抗試合(西軍)に選出され、全日本学生選手権にも出場しました(共に7月/東京・日本武道館)。同選手権では初戦の2回戦で敗れましたが、今後の活躍に期待が高まります。



第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」(10月・栃木県)において、ポッチャに伊藤迅選手(人間福祉①/岐阜希望が丘特別支援学校出身)＝写真左＝、バレーボール(身体)に高橋智子選手(看護①/岐阜ろう学校出身)＝写真右＝が出場します。



硬式野球部 野球界で活躍する卒業生!!

広島東洋カープの野間峻祥選手＝写真右＝と床田寛樹投手が6月21日の阪神タイガース戦で、プロ入り後、初となるOBそろってのお立ち台に上がりました。今季、主将を務める野間選手は、2安打1打点1盗塁を決め、床田投手は7回2失点で今季7勝目を挙げる活躍を見せました。また、床田投手は、7月に行われたオールスターゲームにも出場しました。そのほか、社会人野球の全国大会「第93回都市対抗野球大会2022」には16名のOBが出場しました。



提供/広島東洋カープ

TOPICS

親子ふれあいフェスタ開催 子どもとの遊びを企画・運営

親子でさまざまな遊びを体験できるイベント「親子ふれあいフェスタ」が7月、各務原キャンパスなどで行われ、教育学部子ども教育学科の学生らが遊びを企画し、運営しました。

会場では、学生が手づくりした「巨大バルーンあそび」をはじめ、身体を動かす「ストラックアウト」や「ダンス」、話題のヘアラボを作るコーナーなどがあり、親子で楽しめるようにアレンジした遊びが並びました。そのうち、複数の単純な動きを同時に行う「コーディネーショントレーニング」では、学生がいろいろな動きを披露しながら、運動を通じた親子のコミュニケーションをサポートしました。

運営に携わった同学部2年の森下麻里愛さんは「子どもの気持ちに寄り添える保育士になりたい」と振り返りました。



まちづくりに若い世代の声を 学生が学内でアンケートを実施

まちづくりに若い世代の声を反映させようと、人間福祉学部人間福祉学科の3年生15人が、関キャンパスに通う学生を対象にしたアンケートを始めました。今後、調査結果を踏まえ、まちづくりについて関市に提案します。

アンケートでは、学生が設問の設定から集計や分析までを

行い、結果を基に、学生目線で考えた市にとって必要と思われる施策や取り組みをまとめます。

学生からは「大人から子どもまで楽しめるレジャー施設があるといい」「どんなお店が近くにほしいか設問に加えてみては」などの意見が出ました。

関市では、2023年度から5年間の第5次総合計画後期基本計画を策定していて、学生の提案内容をこの計画に生かす方針です。

手品を通して特別支援学校生と交流 子どもたちと心を通わせるきっかけに

短期大学部幼児教育学科の2年生12人が各務原特別支援学校を訪れ、授業で学んだ手品を通して、高等部の生徒と交流を深めました。

同学科では、今年度から乳幼児と心を通わせるきっかけとして手品に注目。講習会などで手品をしてきた元警察官の金森一さんから技術を学んできました。

学生は高等部1年生21人の前で、4種類の手品を披露。生徒からは「すごい」という歓声が上がりました。その後、学生は生徒に手品をレクチャー。一緒に披露すると、会場から大きな拍手が送られました。小本曾友則助教は「学生が今後も手品の腕を磨き、実習や保育の現場で生かしてほしい。子どもとのコミュニケーションの引き出しのひとつになれば」と話しています。



短期大学部入学生にパソコン貸与開始 ICT教育をさらに進める

大学に続き、短期大学部の入学生にも今年度よりパソコン貸与が始まりました。パソコンは卒業時に贈呈され、新社会人となっても引き続き使用できます(一部の学生を除く)。2年制では先進的な取り組みで、ICT教育を加速させます。(大学院生、通信教育部生、留学生別科生、編入学生の新入生は対象外)。



看護学科の学生が講師役 高齢者に手洗いの方法を伝える

看護リハビリテーション学部看護学科の4年生が講師役となり、地元の高齢者にコロナ禍の正しい手洗いの方法を伝えました。参加者は、蛍光塗料を含んだクリームを手塗りに塗り、手洗した後、ブルーライトを当て、洗い残しの部分を確認。学生はどのように洗うと良いか具体的な方法を教えました。



グループホームでファッションショー 高齢者にメイクを施して若返りを演出

短期大学部社会福祉学科の2年生8人は、グループホーム「せきの憩」でファッションショーを企画、開催しました。認知症高齢者への「若返りメイク」を通して、若いころの記憶を思い起こしてもらおうと、支援方法を学んできました。利用者にヘアメイクを施し、晴れの姿を演出しました。



「現代マネジメント研究」開催 第一線で活躍されている7名が登壇

各界の第一線で活躍している方々が講演する「現代マネジメント研究」。今年も7名の方々が登壇し、学生や市民にメッセージを伝えました。講師は次の皆さん。▶カレーハウスCoco壱番屋創業者 本学客員教授 宗次徳二氏 ▶関市長 尾関健治氏 ▶パローホールディングス代表取締役会長兼社長 田代正美氏 ▶十六総合研究所取締役社長 秋葉和人氏 ▶臨済宗妙心寺派神宮山大禪寺住職 根本一徹氏 ▶岐阜県地歌舞伎保存振興協議会会長 小栗幸江氏 ▶岐阜県議会議員 本学空手道部監督 若井あつこ氏



今後の予定

第20回いきいき地域!たのしみん祭・大学祭
10月15日(土)関キャンパス
第17回学びの森フェスティバル
11月3日(木)各務原キャンパス、学びの森
中部手話スピーチコンテスト30周年記念講演会
11月19日(土)各務原キャンパス

人間福祉学部 留学生交流会 先輩と新入生が親ぼくを深める

人間福祉学部の留学生が集まり、2年ぶりに交流会を開催しました。4年生の5人が企画から準備、進行までを行い、ゲームや自己紹介などのプログラムで盛り上がりました。1年生の自己紹介では歌う学生もいて、会場は笑顔であふれ、上級生の先輩たちと親ぼくを深める機会となりました。



新入生研修で木育に触れる 幼児目線で遊びの感触を確かめる

幼児教育学科の1年生が県立森林文化アカデミー敷地内にある森林総合研究センター「morinos(モリノス)」で森林散策や木工に親しむ木育を体験しました。新入生研修としては初めての試み。学生ははだして丸太の橋や土山を歩いたり、木のおもちゃを使ったり、幼児目線で遊びへの理解を深めました。



JAぎふと産学連携授業 野菜などの魅力を動画にまとめる

山県市の農産物などの魅力を紹介しようと、社会福祉学科の2年生19人がPR動画を制作しました。学生は、しいたけやトマトなどの野菜をはじめ、しょうゆやはちみつといった加工品など6グループに分かれて取材活動を行い、スマートフォンのアプリを使って動画にまとめました。



「現代福祉マネジメント」開催 現場の先進的な取り組みを紹介

福祉や介護の現場では、IoTやロボットの活用による業務の効率化、人材育成、財務管理など、さまざまな改善や改革が行われています。講義では、リアルで先進的な経営事例を聞きました。各テーマは「多様な社会福祉サービスの運営主体」「子どもはなぜ可愛いのか」「新聞記者の仕事から見た社会」「地域を耕し、福祉を耕し、自分を耕す」「介護会社のDXと働き方改革」「放課後等デイサービス、通信制高校サポート校の運営」「製造業から見る福祉業界」「福祉事業開業計画」「1級建築士から見た介護施設への思い」「社会福祉法人の運営と人材育成」。



クリスマス礼拝
12月19日(月)関キャンパス
クリスマス祝会 ※
12月19日(月)関キャンパス
各種表彰式・卒業礼拝
2023年3月17日(金)関キャンパス

卒業式
2023年3月18日(土)長良川国際会議場

(※ 開催方法等検討中)

保護者の皆さまへ

本学では建学の精神や大学の教育方針、並びにキャリア支援などについて、保護者の皆さまにご理解いただくために、毎年「後援会総会・保護者懇談会」を開催しています。

後援会総会・保護者懇談会を開催

6月4日(土)、関・各務原両キャンパスにおいて「2022年度後援会総会・保護者懇談会」を開催しました。過去2年間はオンラインでの開催となり、後援会総会は中止となっていました。今年、本学会場での対面もしくは各ご家庭からのオンラインでの参加を選択いただける形式での開催となり、対面参加、オンライン参加合わせて、約170名の保護者の方々が参加されました。なお、後援会総会・保護者懇談全体会は新型コロナウイルス感染症対策として事前録画にて各学科ごとの会場で視聴していただきました。



関キャンパス会場入口の様子

▶ 後援会総会

最初に、保護者の皆さまにご好評をいただいていたチャペル・アワーを事前録画にて、開催しました。高木総平学院宗教総主事の司会で始まり、短期大学部幼児教育学科の杉山祐子教授のパイプオルガンの演奏の後、高木総主事による聖書の言葉、スピーチでは『見えないものに目を注ぐ』と題してメッセージを送りました。



杉本浩隆後援会会長

引き続き、杉本浩隆後援会会長が「新型コロナウイルスの影響で社会全体が自粛や制限を余儀なくされ、依然終息が見通せない困難な時期ですが、新しい生活様式、タブレット型パソコンを活用したICT環境の整備など、大きな対応の変化がみられている」などとあいさつされ、事務局から新役員の紹介、後援会役員会の決定事項などが報告されました。新役員は次の皆さんです。1年間よろしくお願いします。

- 会長 / 杉本 浩隆
- 副会長 / 岩田 美知絵 河合 めぐみ
- 監事 / 亀谷 みどり 若林 千恵子 (敬称略)



チャペル・アワーの様子

▶ 保護者懇談全体会

後援会総会に引き続き、事前録画にて保護者懇談全体会を行いました。大学の江馬諭学長からは「コロナウイルス感染症対策とICT教育、盛んなスポーツ活動、さまざまな学生に対する組織的な支援」についての取り組みを説明しました。短期大学部の片桐史恵学長からは「建学の精神の具現化、『生きるを学ぶ』を共に考える、環境を整え多様な才能を開花させるべく努力する方針」について話しました。

次に、本学が誇りとしている高い就職率の原動力となっているキャリア支援について、キャリア支援センター事務局から説明を行いました。

最後に、学生を代表して桐山遥前年度学生会会長が中部学院での充実した学生生活の様子や進路・卒業に向けての抱負を語りました。



幼児教育学科個別相談の様子



看護学科別集会の様子

学科別説明会

保護者懇談全体会の事前録画を視聴いただいた後は、対面・オンライン同時に学科別説明会と個別相談会を開催しました。学科別説明会では教員が学修・就職活動・学生生活などのポイントを説明するとともに、個別相談では日頃からの心配事、今後の学修・就職活動に関するアドバイスなど、さまざまな相談にお応えしました。

〈参加者アンケート〉

関キャンパス・各務原キャンパスで行われた「後援会総会・保護者懇談会」では、参加者アンケートを実施しました。アンケート結果は、10月1日に開催される第2回後援会役員会においてご報告します。

また、来年度の会を良いものにするために活用します。アンケートにご協力いただきました皆さまにあらためて御礼を申し上げます。

アンケートの中でのご意見から

大学でこんなに丁寧な保護者向け対応があることに驚きました。会場でもとても温かくもてなしていただきましたし、先生方からの説明も詳しく分かりやすいものでした。個別懇談までしていただき、我が子の大学での様子がよく分かり安心できました。大学でこのような対応をして頂けて本当に感謝の想いでいっぱいです。

子どもからの話だけで大学の様子を想像して過ごしています。大学なので、あまり親を必要としないのは十分わかりますが、大学生の親という時期もたった4年しかないの、保護者ももっと大学に関われるとうれしいです。行事や保護者懇談会をもっと増やしてもらい、先生方ともお話できる機会があると安心して大学生活に子供を送り出せるのではないかなと思います。オープンキャンパスの時から大好きで入学させていただいた学校なので、親子共々たくさん学校に関われるとうれしいです。また今年もX'masイルミネーション楽しみにしています。

地区別保護者懇談会の中止

地区別保護者懇談会については中止し、後援会総会・保護者懇談会にて代替開催としました。

学生数・出身地・下宿状況 (2022年5月1日現在)

| 学 生 数 | 学 科 | 男 | 女 | 計 |
|----------|------|-----|-------|-----|
| | 人間福祉 | 236 | 176 | 412 |
| 子ども教育 | 109 | 200 | 309 | |
| 理学療法 | 143 | 114 | 257 | |
| 看護 | 53 | 280 | 333 | |
| スポーツ健康科学 | 259 | 79 | 338 | |
| 別 科 | 1 | 7 | 8 | |
| 合 計 | 801 | 856 | 1,657 | |

※通信教育部は含まない

| 出身地 | 岐阜県内 | 1,093 | 66.0% |
|------|-----------|-------|-------|
| | 東海地区 | 264 | 15.9% |
| | その他(海外含む) | 300 | 18.1% |
| 下宿状況 | 自宅生 | 1,131 | 68.3% |
| | 下宿生 | 526 | 31.7% |

| 学 生 数 | 学 科 | 男 | 女 | 計 |
|-------|------|-----|-----|-----|
| | 社会福祉 | 31 | 138 | 169 |
| 幼児教育 | 10 | 145 | 155 | |
| 合 計 | 41 | 283 | 324 | |

| 出身地 | 岐阜県内 | 250 | 77.2% |
|------|-----------|-----|-------|
| | 東海地区 | 9 | 2.8% |
| | その他(海外含む) | 65 | 20.0% |
| 下宿状況 | 自宅生 | 228 | 70.4% |
| | 下宿生 | 96 | 29.6% |

東海地区：愛知県・三重県・静岡県



中部学院大学
同短期大学部

関キャンパス 〒501-3993 岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL 0575-24-2211
各務原キャンパス 〒504-0837 岐阜県各務原市那加翔田町30-1 TEL 058-375-3600

[大学院] 人間福祉学研究科 修士課程 博士課程(後期)
[大学] 人間福祉学部 人間福祉学科(社会福祉コース/精神保健福祉コース/介護支援コース/地域貢献コース)通信教育部
教育学部 子ども教育学科(小学校・中学校教諭コース/幼稚園教諭・保育士コース)
看護リハビリテーション学部 理学療法学科 看護学科
スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科(スポーツ健康領域/スポーツマネジメント領域/障がい者スポーツ領域/保健体育科教育領域)
[短期大学部] 幼児教育学科(あそびすとコース/障がい児支援コース/子育て支援コース)
社会福祉学科(介護福祉コース/美・デザインコース/医療事務コース)